



春江だより

第 8 号

平成24年11月 30日

「四つの幸せ」

校長 小林 勝人

いつものように今年もまたあとひと月となりました。1年という時間が、歳とともに年々早く感じられるようになってきました。もう「巳年」が近づいて来ています。この秋、特に9月は、観測史上最も気温の高い9月だったそうですが、この冬は、やはり厳しい寒さがやって来ると思います。この頃は、朝夕の寒さも一段と増して来ました。風邪やインフルエンザにかからぬよう今後とも万全を期して行きたいと思います。改築のため校庭の木々が殆どなくなってしまい、淋しい限りですが、仮設校舎の建設は順調に進んでおります。保護者の皆様、地域の皆様には、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、音楽会は、いかがでしたでしょうか。子供たちの感性溢れる演奏をお聴きいただけたことと存じます。会場が手狭なため、ご不自由をおかけしたことはご容赦ください。ご多用の中、ご参観くださりまして誠にありがとうございます。また、第1回、第2回の「学校評価アンケート」へのご協力もありがとうございます。先日、結果を紙面と本校ホームページで公表いたしました。謙虚に受けとめ、さらに改善を図って参ります。

ところで、人には「**四つの幸せ**」があると言われます。毎日放課後、1年生の子どもたちが下校する前に、校長室の前で「校長先生さようなら」とあいさつしてくれています。私は、校長としてとても幸せだなと感じています。お金がたくさんあるとか、物が豊富にあるとか、健康でいることなどは、一面的な幸せかも知れませんが、本当に心の底から幸せに感じるのは、次の四つだと言われています。

○人に**愛される**幸せ

○人に**ほめられる**幸せ

○人の**役に立つ**幸せ

○人から**必要とされる**幸せ

前にもどこかで述べたかも知れませんが、心理学の分野では、「ピグマリオン効果」という用語があります。ギリシア神話に登場する王様の名前からとられた言葉ですが、要するに、ほめられ、期待をかけられることにより、自分は期待されているのだと思うようになり、何とかその期待に応えようとする心理によってどんどんよくなっていく、その人のためになりたいといった効果を言います。

つまり、「四つの幸せ」を感じるために、この「ピグマリオン効果」が密接にかかわっていると私は考えます。自分から働きかけることも大事ですが、相手方を愛し、ほめ、役に立っていることを知らせ、必要な人であることを常に感じてもらうようにすることが大切だということです。子どもも大人もみんな幸せでいたいですね。

最後になりましたが、今月末より始まりました保護者の皆様と担任との個人面談もまだ残っております。ご協力ありがとうございます。学期末ということで、それぞれの学年でそれぞれのまとめをしっかりと取り組んで参ります。そして、有意義な冬休み・よきお正月を迎えたいと思います。1年の最終の月も、皆様のご理解・ご協力をどうぞよろしくお願いいたします。